

インターバンクの声（2015年6月10日）

9日の外国為替市場は、国内外ともに株安の影響を受けて動くような時間帯も目立ったが、ニューヨーク市場では一転して米長期金利の上昇に相場が反応した。日経平均が前日比で360円以上も下げて引けた後、124円台10銭台まで下げていたドル円だったが、ロンドン市場の早い時間に何故か一旦124円中盤へドルが買い戻された。しかし、結局は欧州株も全般的に安くなり始めていたことから、リスク回避の名の元に再度円買いとなり、徐々に123円台に突入した。相場のバイアスは完全に円高方向に掛り始めていたが、ここでドルが反発するきっかけになったのが米中長期金利の上昇だった。今日、アジア市場に戻って来ても、国内を含め中国の主要指標の発表なども予定されておらず、今日も株価の値動きを気にしながら為替を見ることになりそうだが、おそらく11日のニューヨーク市場の朝に発表される小売売上高の発表までは一進一退の相場展開が続くことになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。